

あと一步の向上に向けた取組

函館市立 港 小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」運動を『家庭で取り組むは・こ・だ・て』を活用しよりよい生活習慣づくりを推進する。（学習習慣と生活習慣の改善を図るために）
- ②「家庭学習の手引き」を作成・配布し、家庭と協力しながら学習習慣の確立を目指す。
- ③朝のドリル学習を全学年週2回実施し、基礎的な知識技能の確実な習得を目指す。
- ④放課後の補充学習を週2回20分程度全学年実施し、学力差の減少を目指す。
- ⑤「伝え合う力を高める言語活動の充実」を目指し、授業を展開する。また、授業評価を取り入れ、より効果の上がる授業を目指す。
- ⑥少人数指導に関する研修等を実施し、指導方法の工夫改善と習熟度別学習実施に向けた組織的な取組を行う。

2 取組の概要

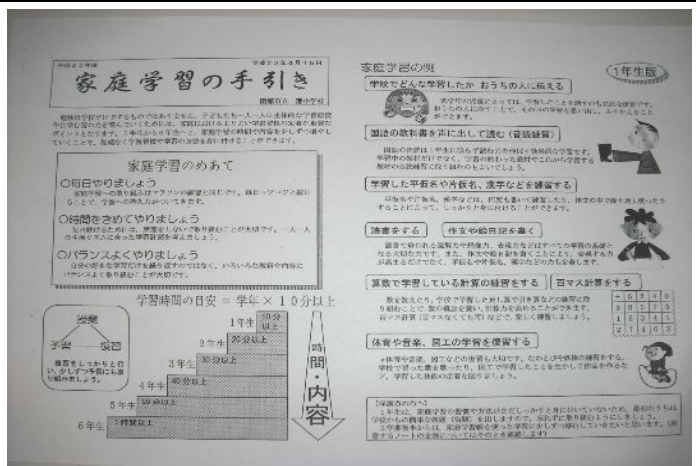
今年度の港小学校の重点となる取組として、
＜家庭学習の充実＞を目指し、テーマを

- 学習習慣の定着
- 学習内容の充実
- 家庭との連携

【学習習慣の定着】に向けて
「すべての子どもが毎日家庭学習に取り組む」ことを目標に、家庭状況に配慮しながら支援する。低学年では「課題学習（宿題）」の割合を高くし、高学年になるにつれて「自主学習」の割合を高くする。最終的には、学校から課題が出されなくても自分で学習内容や方法を選び、主体的に家庭学習に取り組む子の育成を目指す。

【学習内容の充実】に向けて
主体的な学習ができるように、『学年ごとの段階的な学習内容の例』を示す。また、学習への理解を深める（予習）と定着を促す（復習）を家庭学習の両輪ととらえる。特に低学年のうちに少しずつ（予習の芽）を育てる取組を行う。

【家庭との連携】に向けて
保護者への納得のいく説明が必須であり、ほぼ全保護者が集まるPTA総会での説明、家庭訪問での説明と個人の取組へのアドバイス、学校学年学級通信での協力依頼など学校と家庭の役割分担を明確にした。

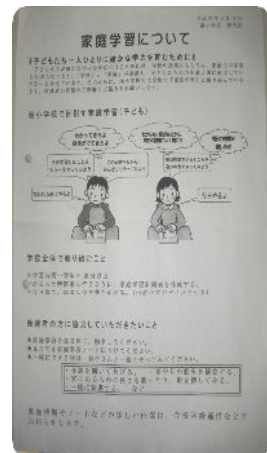


《全校の取組》以下の観点について共通理解を図った。

- ◎学習時間・・・学年×10分
- ◎計画表を作成し、＜決まった時間＞に行く。
- ◎毎日提出させ励ましの声をかける。（内容に関するアドバイス）
（採点やコメントの記入はしない（継続させるため））
- ◎保護者にも毎日見てもらう。（「見ました」などの印をもらう）
- ◎時々「自己評価」を行わせる。
- ◎通信や懇談会等で、他の子の内容等を取り上げる。

《実施までの流れ》平成22年度より家庭学習の手引きや長期休業中の取組方法を説明

- 1 各学級『家庭学習の手引き』『実践例』のプリント配布
- 2 PTA総会で研究部より家庭学習について保護者へ説明
- 3 懇談会欠席者には家庭訪問時に詳細を説明
- 4 各家庭で『家庭学習計画表』を作成（計画表を用いて児童へ説明）
- 5 5月より全校で一斉実施



3 成果(○)と課題(●)

- 子どもたち自身が「学習することによる自らの向上の度合い」を知ることができ、学習方法の改善にも役立てられるようになった。
- 家庭での取組が、学校での学習にも十分に反映されるため「学習意欲の向上」につながった。
- 2年目の取組であるが、さらに改善を重ね、特に「学習方法と学習内容」の充実を図る必要がある。
- 「宿題中心」を希望する保護者に対して「意図と内容」の理解をさらに求めていく。